

令和6年度 第3回 静岡市上下水道事業経営協議会 会議録

1 日時 令和6年12月20日(金) 15:00~17:00

2 場所 静岡市上下水道局庁舎 7階71会議室

3 出席者

(1) 委員(五十音順、敬称略)13人出席/13人全体

馬居委員、狩野委員、塩野委員、鈴木委員、竹内委員、橋本委員、濱田委員、
原田委員、堀住委員、安井委員、山本委員、横澤委員、横山委員

(2) 上下水道局職員

渡辺上下水道局長、花村局次長兼経営管理部長、望月水道部長、大石下水道部長、
川口上下水道総務課長、小林参与兼上下水道経営課長、宮崎上下水道経理課長、秋山参与兼お客様
サービス課長、
石野参与兼水道計画課長、稲葉水道建設・維持課長、藤田参与兼水道施設課長、浅井水質管理課長、
瀧戸水道事務所長、新庄水道維持担当課長、角谷清水水道施設担当課長、山本葵北水道施設担当課
長、
石上下水道計画課長、松田下水道建設課長、森田参与兼下水道維持課長、戸塚下水道施設課長、
杉山下水道事務所長、河野葵・駿河浄化センター担当課長、山上清水浄化センター担当課長

(3) 協議会事務局職員

小林上下水道経営企画課長 外5名

4 傍聴者 2人(報道2社)

5 内容

次第1 開会

事務局から資料確認など

次第2 議題等

(1) 意見報告書及び第7期活動報告書について

鈴木会長、事務局から説明

資料1 第5次中期経営計画 事務事業評価 意見報告書(案)

資料2 第7期 静岡市上下水道事業経営協議会 活動報告書(案)

質疑応答

(鈴木会長) 資料1 第5次中期経営計画事務事業評価 意見報告書(案)の意見の総括部分
読み上げ、内容の委員確認

→意見、修正なし

(鈴木会長) 第7期 静岡市上下水道事業経営協議会 活動報告書(案)の意見・要望部分読み上

げ、内容の委員確認

→意見、修正なし

【鈴木会長】

修正がないということで、こちらを令和5年度の意見報告書として後ほど管理者に提出をさせていただきますと思う。

次第3 報告事項

(1) 静岡市上下水道経営管理チームの取組状況について

小林上下水道経営企画課長から説明

資料3 静岡市上下水道経営管理チームの取組状況について

質疑応答

【濱田委員】

P9「給水拠点等の整備・拡充」の説明の際、給水栓付受水槽の話があったが、自分の住んでいるマンションに設置してある受水槽は飲用可能なのが1日程度と言われている。配水池の水の活用や給水栓付受水槽は何日ぐらい飲用可能なのか。

(上下水道経営企画課長)

配水池の水の活用に関しては、まず緊急遮断弁が落ち、水が確保される。飲用は、そこから季節によって幅があるが、3日から7日と言われている。給水栓付受水槽に関しても飲用については3日程度となる。

【濱田委員】

マンションの受水槽も3日ぐらいと思ってよいか。

(水道計画課長)

マンションの受水槽には緊急遮断弁等はないので少し異なるが、飲用は季節にもよるが、3日程度と思ってよい。

【原田委員】

給水栓付受水槽に関連するが、地元の自治会では水を医療関係に使いたいという声もあったが、飲料水と医療用に使用する水の確保をどう考えればよいか。

(上下水道経営企画課長)

確保できた水の中でやっていかなければならないのが実情。もともとの計画では給水車で補うことを想定していたが、今後はすぐには給水車は来れないだろうという想定のもと、給水栓付受水槽に加え、自助として各避難所で飲料水の確保をしていくことも重要となる。飲料水1人1日3Lを守ってもらいながら給水していく必要がある。

【原田委員】

特に飲料水については、各家庭で3日分確保に関する事など、より一層告知をお願いしたい。

【竹内委員】

静岡市だけの課題ではないと思う。地震の対策や老朽化のために、投資を抑えるという全国共通の課題があるので、どこの市町村でも同じように会議をし、デジタル化等を進めていっていると思う。情報共有や広域連携でコストを抑えることを考えてほしい。そのあたりの進捗を伺いたい。

(上下水道経営企画課長)

先進事例は水道はかなり多く、連絡協議会等で情報収集をしている。下水道は比較的最新技術の事例は多くないが、実証実験を含め進めていきたい。広域で同様の業務の発注をし、コスト削減を

図るという取組は全国的にも事例はある。水道・下水道の技術に関するものに限らず、料金システムなどの広域化も考えられる。検討の上、できるところはそのように取り組んでいきたい。

【横澤委員】

P10～12のAIを活用した水道管の余寿命診断、下水道管の劣化診断は非常に興味深い。先日迎山町で漏水があった管は50年以上経過していたと報道で知った。このように後手後手にならないようにAI等の新技術をうまく活用してほしい。これらはいつから取組み、どの程度の削減が見込まれるか。

(水道維持担当課長)

AIを活用した漏水調査は令和6年度から取り組んでいる。また、効果額として、令和5年は400万円ということで算出している。

(2) 令和7年度上下水道事業当初予算の重点項目について

上下水道経理課から説明

資料4：令和7年度上下水道事業当初予算の重点項目について

質疑応答

【狩野委員】

令和6年度の水道事業と下水道事業と比較して、令和7年度の当初予算というものはどのくらいの増減を見込んでいるか。

(上下水道経理課長)

水道事業会計： 3条予算はR6約120億に対し、R7約119億で前年度並み、
4条予算はR6約95億に対し、R7約107億で若干増加となっている。

下水道事業会計： 3条予算はR6約222億に対し、R7約218億でほぼ前年度並み、
4条予算はR6約212億に対し、R7約199億で若干微減となっている。

(3) 静岡市清水地区水源検討関連業務の進捗報告について

水道計画課長から説明

資料5：静岡市清水地区水源検討関連業務の進捗報告について

質疑応答

【鈴木会長】

この件については、地元の住民の方々が非常に心配される場所だと思う。引き続き進捗については地域住民を中心に説明をお願いしたい。

(4) 第7期協議会を振り返って

省略

(5) 意見報告書及び第7期協議会活動報告書の提出

鈴木会長から大石公営企業管理者へ手交

(6) 会長挨拶

(コメント抜粋)

- ・これまで特に企業債について問題視し指摘してきた。京都市に次いで2番目に企業債残高対給水収益比率が高く、これ以上企業債残高を増やしていくのでは、将来の世代に負担を転嫁してしまうため、何とかしなければいけない。
- ・財源を国の補助金、一般会計からの融通、合理化やコスト削減に求めていくというのにも限界がある。
- ・今後、水道料金、下水道使用料の改定について検討が必要である。
- ・能登半島地震もあり、耐震化等が必要であることは、市民もある程度理解している。
- ・この協議会を市側、市民の信頼関係醸成の場にこれからもしていきたい。

(7) 静岡市公営企業管理者謝辞

(コメント抜粋)

- ・耐震化推進や配水池の活用の取組はすでに今年度より取り組んでいる。
- ・市長にも来年度の見直し点は4つであると説明した。
- ・そのうち、意見報告書に記載していただいた3つ、「①管・施設の減災対策」、「②給水拠点の整備・充実」、「③人材育成の推進」、活動報告書の中で言及していただいている効率化などを含む「④経営体制の強化」についても自分としても同じ考えで、来年度予算に反映しており、見直しを進めている。
- ・持続可能な上下水道事業というのをどうやって作っていくのか、来年は議論を深めていく。
- ・2年間の議論について改めて感謝申し上げたい。

<連絡事項(事務局)>

- ・資料7は、令和7年1月20日(月)までに事務局宛て提出いただきたい。
- ・次期第8期の協議会における市民委員の募集についてぜひ応募していただきたい。

確認

静岡市上下水道事業経営協議会会長

(署名) 鈴木 学